

あつま

生涯学習だより

主な記事

- ・「厚真町の夢のある教育」をめざして
- ・厚真の遺跡発掘成果
- ・1月定例教育委員会の報告
- ・第2回厚真町中学1年生英語暗唱大会
- ・第36回スケート記録会成績
- ・図書室だより
- ・放課後子ども教室活動紹介

「厚真町の夢のある教育」をめざして

学校間交流にスカイプを活用

ICT活用教育の一貫として教育委員会が導入を進めているタブレットを活用して、厚真中央小学校と上厚真小学校の6年生が、2月8日にスカイプによる学校間の交流に取り組みました。

小学校では、九州などの遠隔地の小学校で英語教育に先進的に取り組んでいる学校とのスカイプによる交流を検討しています。その手始めとして、厚真中央小学校と上厚真小学校の6年生が、2月8日にスカイプを活用した学校間の交流を行いました。

交流では、6年生で取り組む厚真プロジェクト（6年間で学んだ言葉や文を使って、外国の方に自己紹介する内容で、小学校のまとめに位置づけている本町のコミュニケーション科の授業の名称です）の一貫として相互に自己紹介しあったり、分らないことについては質問したり、“Sorry”と聞き返したりしていました。子どもたちは、緊張しながらも初めてのスカイプによる交流を楽しんでいました。



教師力アップ研修 冬季研修会

今、子どもたちが自ら進んで課題を持って、考え、解決するという課題解決型の授業が求められています。

授業での課題設定は厚真町の多くの学級でも取り組まれていますが、このたび、子どもたちが一層意欲的に取り組むためには、課題の設定にどんな改善や工夫が必要か、より良い授業づくりをテーマに、北海道教育大学 准教授 早勢裕明先生を招いて「あつま教師力アップ研修会」を開催しました。

講演では書写の授業の例などを取り上げ、その時間で学ぶための課題をとらえさせるには、どのような問題の投げかけが効果的か、さらに、子どもの課題意識を高めるための工夫などを学びました。

ワークショップでは、与えられた教材をもとに実際の授業場面を想定した教材の分析や子どもへの発問づくり等に取り組みしました。



厚真町ICT教育推進研修会

国の教育の情報化ビジョンの中では、21世紀に生きる子どもたちに求められている力を育むためにはICTの特長を生かし、子どもたちの興味・関心を高めて学習を深めることが期待されています。ICTの活用は授業の質の向上にもつながり、その特長を生かすことにより授業改善を大きく進めることが可能であると述べられています。

教育委員会ではその活用環境の整備を進める一貫としてICT活用教室クレーバーキッズの熊谷代表を招いて「厚真町ICT教育推進研修会」を実施しました。

参加した先生方はタブレットコンピューターを中心としたICTに関する専門的な知識・技能について学びました。熊谷代表は授業でのよりよい活用のためには、「まず使ってみること、自身が使う中からヒントを得ることが大切である」と学校にあるICT機器の一層の活用を呼びかけていました。

